

氏名	主任	課	係	担当者
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

平成 21 年 10 月 9 日 (金)

伊豆山港 伊豆山港

8 日の伊豆山港及び逢初川河口部のごり調査をうけて、上流部の確認を行った。

調査員： [Redacted] [Redacted] [Redacted]

雨水により、開発地の転圧不足の土砂が流れ出していることが確認された。(現地の土砂は長靴がはまると抜けなくなるような軟弱な状態)

流出した土砂のうち、濁りの原因となる細粒成分の多くは、河川内で堆積することなく、そのまま河口から海水中に流出する。(逢初川は急流なので、ほぼすべての細粒土砂が堰堤も通過して海に流出するものと考えられる)。海に流出後、一部の細粒成分は海水と混ざり合うことで凝集し沈降するが、表層部は海水と混じり合わずに、薄く広く濁りが拡散する。今回のように河口部で高波状な条件となった場合は、沈降した濁り成分が波により巻き上げられ、広範囲で全層的に海水が濁った状況となる。

河川区域の上流ではあるが、当該地の土砂が逢初川に流入していることは確実にみられ、河口部の港湾利用者からの苦情もあるため、何らかの形で開発者に対する指導が必要と考えられる。



